



【発行】

偕行会リハビリテーション病院

医療相談課

〒490-1405 弥富市神戸5丁目20番地

TEL 0567-52-3883 FAX 0567-52-3885



今年度を振り返って

平素より当院にご理解とご支援を賜っております皆様へ心よりお礼申し上げます。2025 年度も皆さまの温かい支援により、回復期リハビリテーション病棟での看護を着実に前へ進めることができました。この一年、当院では患者さんが再び地域やご自宅で安心して生活が送れるよう多職種が一丸となり支援に取り組んでまいりました。医療・介護を取り巻く環境が大きく変化する中で地域の関係機関の皆様との連携、そして御家族の協力のもと、患者さんに寄り添った看護を提供する事ができましたことを深く感謝いたします。

回復期リハビリテーション病棟の看護は、身体機能の回復だけでなく患者さんが「その人らしい生活」が送れるよう元々の生活を知り、看護ケアを行い、退院後の生活を支援するという非常に幅広く奥深い分野と感じています。そのため看護師のみならず医師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカー・管理栄養士・薬剤師等と多職種での連携が重要となります。互いの専門性を発揮しながらチームで患者さんを支援し続けられていることは当院の大きな強みと感じております。

2026 年度は診療報酬改定の年度であり、回復期リハビリテーション病棟においても様々な体制強化が求められます。早期からの退院支援、家族指導はもちろん栄養評価のため管理栄養士との連携強化、栄養・口腔状態を含めた全体的な生活機能の回復を目指した看護実践を行ってまいりたいと思います。看護ケアにおいても「変わることを恐れず変わらないことの継続」を持ち、引き続き患者さんの「できる力」を最大限に引き出す回復期リハビリテーション病棟の看護を深め、働きやすく、誇りを持てる職場づくりをさらに進めてまいります。今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。年度末のご挨拶とさせていただきます。

看護部長 高野 弓



今年度の学会発表・論文投稿

期間	学会	発表者
2025.5.18	第 32 回愛知県理学療法学会学術大会	佐藤直弘 溝脇亮 澤島佑規 (佐藤直弘:新人賞受賞)
2025.6.27-29	第 70 回日本透析医学会学術集会	前川智哉
2025.8.22-23	第 29 回日本看護管理学会学術大会	川端千香子 高野弓
2025.10.25-26	第 41 回東海北陸理学療法学会学術大会	奥田翔吾 佐藤直弘 澤島佑規
2025.10.31-11.1	第 23 回日本神経理学療法学会学術大会	溝脇亮 小林広空 澤島佑規
2025.10.23-25	第9回リハビリテーション医学会秋季学術集会	岡部雄斗 戸嶋和也
2025.11.7-9	第 59 回日本作業療法学会	川口悠子 小林由衣
2025.11.21-22	リハビリテーション・ケア合同研究大会大阪 2025	北村夏子 平野めぐみ 中村遥 曾根佑斗
2025.11.21-23	第 44 回日本認知症学会学術集会	戸嶋和也
2025.11.24-26	International Convention on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology (i-CREATe2025)	Kazuya Toshima
2025.12.8-9	2025 Japan-Poland International Workshop on Technologies supporting rehabilitation and medical services	Kazuya Toshima (Best Student paper Award 2025)
2026.1.10-11	第 24 回東海北陸作業療法学会	子池なつみ
2026.1.31	日本物理療法合同学術大会 2026	小林 広空
2026.3.29	第2回偕行会看護発表会	佐藤学 秋山駿介 清水彩夏
雑誌	執筆者	
物理療法科学 第 33 巻	小林広空	
愛知県理学療法学会誌 第 37 巻	佐藤直弘	

第2回偕行会看護発表会

本発表会は、偕行会グループの看護師が所属の垣根を越えて日頃の看護の取り組みを共有し、看護の価値を高め合うことを目的に、昨年度から開催しております。今回は 26 演題の実践発表に加え、特別企画 2 題を予定しています。当院からは看護師3名が以下の発表をいたします。

○[若年脊髄損傷患者の排泄管理]

内容:患者の思いに寄り添い、退院後の QOL を重要と考えた排泄管理の看護実践報告。

○[知的障害のある患児の離床に向けての関わり]

内容:知的障害のある患児の特性を理解し支援することで、離床につなげることができた看護実践の報告。

○[維持期へ移行した失語症者への訪問看護師の視点と役割]

内容:維持期へ移行した失語症者とその家族との関わりにおいて、訪問看護師が想いを繋げる代弁者として周囲の人への発信を積み重ね行うことで、本人・家族の望む生活に近づけることができた事例の実践報告。

透析センターより 医師着任のご紹介

2025 年 11 月より、透析事業部所属の腎臓内科医・羽切医師が透析センターに着任いたしました。

これまで当センターは曜日ごとの医師体制でしたが、現在は月曜から金曜までの常勤で診療いただいております。患者様を継続して見守ることができる体制となりました。患者様の日々の小さな変化にも気付いていただき、看護部としても、とても心強く感じております。

羽切医師は、透析治療に加え、症状のない虚血性心疾患の早期発見や透析中運動療法・炭酸泉の活用など、合併症予防にも積極的に取り組んでいます。患者様との対話を大切にしながら、わかりやすい説明を心がけており、和やかな雰囲気の中で診療が行われています。

また、治療方針についてもスタッフと丁寧共有していただくため、スタッフ間の連携もより深まり、チームとして同じ方向を向いて診療にあたるできています。

これからも透析室スタッフ一同、力を合わせ、地域の皆様に安心して透析治療を受けていただけるセンターづくりに努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



チョイソコやとみ

チョイソコやとみとは・・・電話やスマホで予約をすると、ご自宅近くに設置された住宅地停留所にワンボックスタイプの車両が配車され、市内（一部市外）目的地停留所へ移動することができる公共交通です。

弥富市では2025年10月から運用が始まっています！

！ 利用のポイント ！

○ **会員登録**（無料）、当日30分前までの**事前予約**が必要

○ 月～土の 8 時～18 時運行（**日祝、年末年始は運休**）

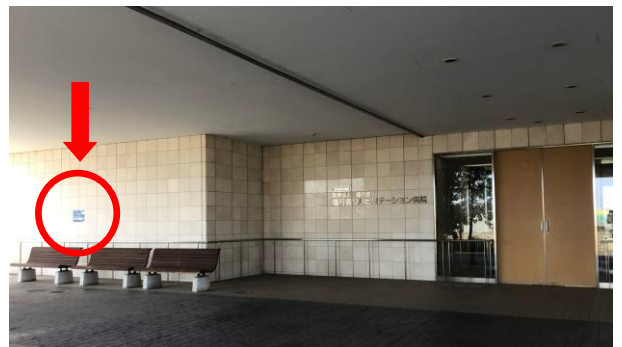
○ 運賃は一般 200 円

（小中高生、障害者手帳所持者、75 歳以上、運転経歴証明書所持者は 100 円）

* 詳しくは弥富市のホームページ[チョイソコやとみときんちゃんバスの再編について]をチェック！



👉 当院にも停留所があります ♪ 👈



おいしく健康に季節を味わう

～栄養士のお食事だよ～

今回ご紹介するのは**菜の花**です。

菜の花はアブラナ科の植物で、蕾・茎・葉まで丸ごと食べられる**春の訪れ**を感じさせる代表的な食材。

味の特徴であるほろ苦さは**イソチオシアネート**という成分によるもので、この成分は**抗酸化作用**があり、季節の変わり目の体調維持を助けます。**ビタミンC**や**葉酸**、**鉄分**等も豊富で、春の栄養補給にぴったりの野菜です。



❖茹でるときは**1分ほどサッと！！**加熱しすぎると香りと栄養が逃げやすいです！

豊富に含まれる**ビタミンC**は**水に溶けやすい性質**があります。

❖苦味を楽しむなら「からし和え」

❖苦味をやわらげるなら「ツナ和えやマヨ和え」「おひたし」などもおすすめ！

❖**つぼみは取らないで！**栄養が一番多い部分

つぼみに**グルコシノレート**(**イソチオシアネート**のもと)が多く含まれます。

茹で時間は
1分ほど



献立

ひな祭り寿司

菜の花の辛し和え

すまし汁

きな粉プリン



ひな祭りの行事食です

食事療法を行っている場合は医師や管理栄養士などに相談しましょう

診療技術部 栄養課



リハビリテーション部～自費外来診療・治療機器について～

今回は 2024 年 11 月より提供を開始した、自由診療による外来リハビリテーションと治療機器についてご紹介します。

自由診療とは、医療保険や介護保険の対象外でも、ご希望に応じて受けられるサービスのことで、保険適用外の方や、保険期間が終了しても継続してリハビリを希望される方などにご利用いただけます。費用は自己負担となりますが、回数・時間・内容を保険に縛られずに柔軟に設定できる点がメリットです。

当院ではこれまでに、入院患者さまの機能回復支援のために mediVR(メディブイアール)カグラ、医療用 BMI(ビーエムアイ)手指タイプ、HAL(ハル)腰タイプなどの新しいリハビリ機器を積極的に導入してきました。これらの機器を外来の自由診療でも活用し、より多くの方にリハビリを受けていただけるようサービスを提供しています。



mediVR カグラ

専用のゴーグルを着け仮想空間の中で運動を行います。
当院では主にバランスや注意障害の改善を目的に使用します。



HAL(腰タイプ)

装着して運動を行うことにより、身体機能の維持・向上を目的に使用します。



BMI(医療用手指タイプ)

頭皮上から生体信号を検出し、装着したロボットを介して手の麻痺の機能回復を目的に使用します

経験のある理学療法士・作業療法士が、利用者さまのご希望や症状に合わせてこれらの機器を組み合わせ、個別のリハビリテーションプログラムを作成します。発症からある程度期間が経過した方であっても、継続的に取り組みたい方や、保険適用外で自由にリハビリを受けたい方に対応しています。

技術は日々進歩しており、リハビリのご希望も多様です。今後も利用者の皆さまのお声を伺いながら、地域の新たなリハビリの受け皿となれるようプログラムや機器の充実に努めてまいります。ご不明点がありましたらお気軽にご相談ください。

コンペティションで 1 位を獲得！



「Japan-Poland International workshop on Technologies supporting Rehabilitation and Medical-service」という国際的なワークショップへの発表参加を行ってきたので報告します。

発表のテーマは「Influence of Vibration Frequency in iWakka-Vibe Rehabilitation on Motor Function and Muscle Tone After Stroke」です。

脳卒中後の上肢麻痺に対して振動刺激装置を開発し、それをリハビリテーションに活用できる可能性を示した発表でした。発表後は、コンペティションといい、発表に対して順位がつけられました。私は、そこで 1 位を獲得することができました。今までの努力が認められ、大変うれしく思いました。

しかし、研究は 1 人では行うことはできません。今までも多くの方々からの支援によって実施できています。感謝を忘れずに引き続き頑張っていきたいと思えます。

作業療法士 戸嶋和也

【私たちの基本理念】

- 1、患者のための医療を目指します。
- 2、他の医療機関と連携して、地域医療の発展を目指します。
- 3、教育・研究を重視し、職員の自己研鑽に努めます。

医療法人偕行会 偕行会リハビリテーション病院

〒490-1405 弥富市神戸 5 丁目 20 番地

TEL 0567-52-3883 (代表) FAX 0567-52-3885



ホームページ
はこちら

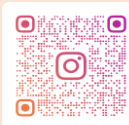


最新の情報、載ってます！

Follow us!!



Instagram facebook



KAIYUKAI REHABILITATION HOSPITAL